

令和5年度第2回越谷市文化財調査委員会

日 時 令和6年2月1日(木)午後3時

会 場 越谷市役所第二庁舎3階 教育委員会室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

(1)指定文化財候補について

(2)文化財保護事業結果について

〔令和5年8月～令和6年1月末実績〕

4 そ の 他

5 閉 会

— 越谷市文化財調査委員名簿 —

(任期：令和5年8月1日～令和7年7月31日)

(50音順 敬称略)

No.	氏 名	所属・役職等	任 期
1	いた がき とき お 板 垣 時 夫	埼玉県文化財保護協会 副会長	R7.7.31 まで
2	か とう こう いち 加 藤 幸 一	元越谷西特別支援学校 教諭	R7.7.31 まで
3	たか さき こう じ 高 崎 光 司	元埼玉県立越ヶ谷高等学校 教諭	R7.7.31 まで
4	はし もと ゆういちろう 橋 本 雄一郎	越谷市立平方小学校 主幹教諭	R7.7.31 まで
5	はた の ひで あき 秦 野 秀 明	NPO 法人越谷市郷土研究会 副会長	R7.7.31 まで
6	はやし たか し 林 貴 史	久喜市文化財保護審議会 委員	R7.7.31 まで
7	や ぐち たか えつ 矢 口 孝 悦	元羽生市教育委員会 事務局職員	R7.7.31 まで

3 報告事項

(1)指定文化財候補について

資料1のとおり

(2)文化財保護事業結果について〔令和5年8月～令和6年1月末実績〕

①文化財の指定及び解除に関すること

特になし

②埋蔵文化財の発掘に関すること

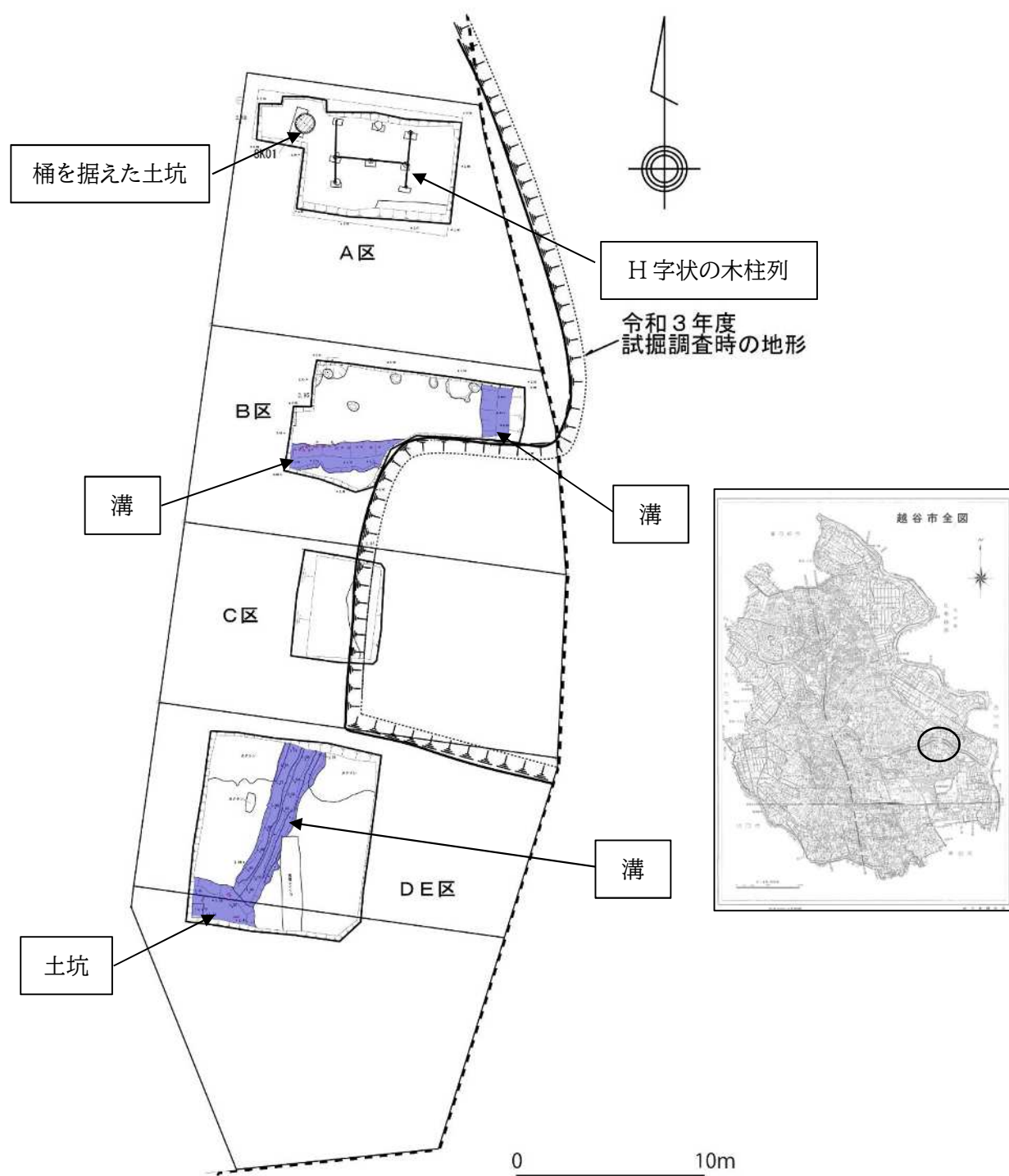
西口遺跡の調査

No.	調査区	所在地	調査期間	面積
1	C 区	大成町一丁目 2254 番 11	5/22～5/30 実働4日	約10m ²
2	A 区	大成町一丁目 2254 番 9・14	5/26～5/30 実働5日	約60m ²
3	B 区	大成町一丁目 2254 番 10	6/5～6/14 実働7日	約50m ²
4	DE 区	大成町一丁目 2254 番 12・13	6/14～6/30 実働9日	約95m ²
5	6区	大成町一丁目 2270 番 10・11	10/23～10/30 実働6日	約60m ²
集 計			実働 31 日	約275m ²

<結果>

No.	調査区	所在地
1	C 区	DE区で確認された溝がC区に達しない(溝が直線的に延びない)。
2	A 区	桶を据えた土坑1基と木柱をH字状に確認。年代は江戸時代と思われる。
3	B 区	溝2条、土坑3基、小穴4基を確認。時期不明を除き、年代が判明するものは江戸時代と思われる。
4	DE 区	溝1条及び溝と連結する土坑1期を確認。共に年代は江戸時代と思われる。溝と土坑には時期差があり、溝の方が新しい。
5	6区	溝4条及び土坑1基を確認。うち1条は平安時代。土師器須恵器出土

<調査区図> 調査No.1～5 (A区からDE区)



※調査No.5(6区)は現在図面作成中。写真など整理中。

<調査区写真>

※全ての調査区で湧水するため、水は湧水したもの。

C 区

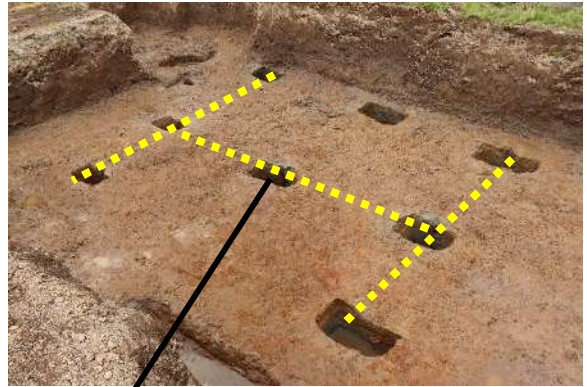


遺構が無い状況 及び 東側(写真右手)に地形が落ちている状況

A 区



桶を据えた土坑



H 字状の木柱列



杭が打ち込まれている状況

B 区

溝



溝(手前)



DE 区

土坑と溝
溝は C 区に達しない

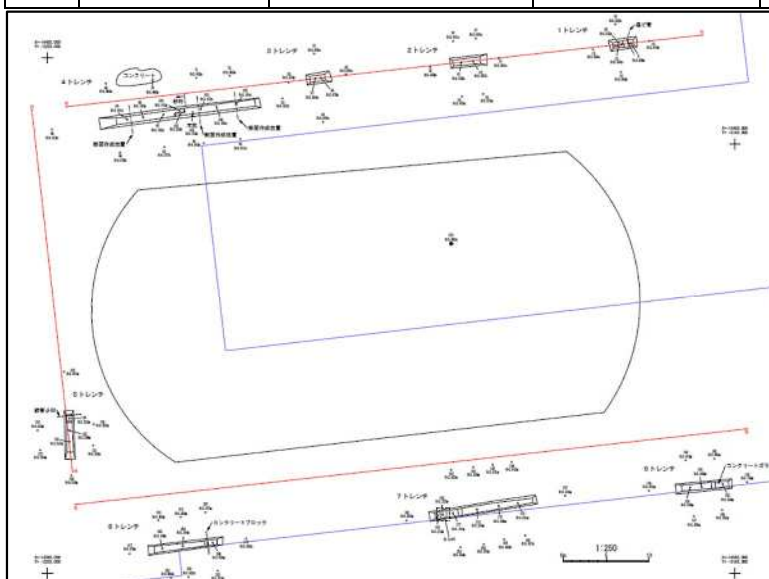


土坑断面

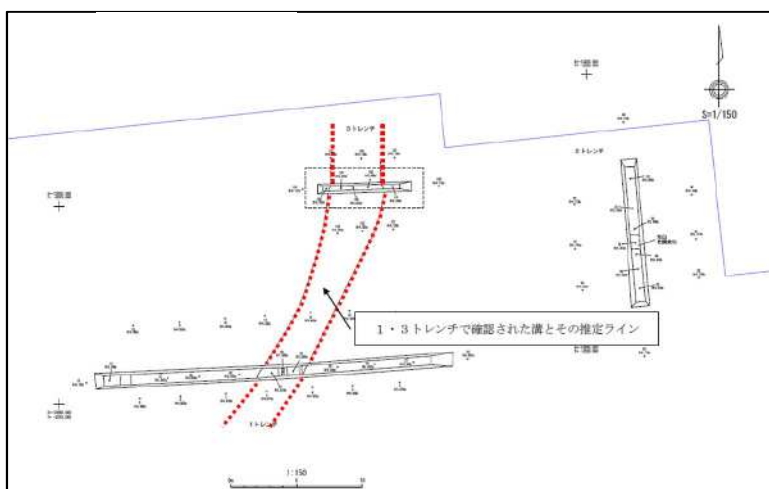


試掘調査

No.	場所	原因	調査期間	結果
1	蒲生小学校	小中一貫校整備	11/8～11/17 実働 5 日	現代溝1条確認。 ほか遺構遺物無し。
2	南中学校	小中一貫校整備	11/13・15 実働 2 日	時期不明の溝(幅約 4m) 確認。木杭出土。 迅速測図に記載のある溝 と思われる。 →近世後期～近代のもの と考えられ調査対象外



No.1 蒲生小学校トレンチ配置図及び写真



No.2 南中学校トレンチ配置図及び写真(溝検出状況)

③無形文化財の助成に関すること

特になし

④指定文化財の修理復旧又は滅失、き損防止の措置に関すること

埼玉県指定文化財「木造伝正観音菩薩坐像」修理事業を実施中。

(1) 修理検討会の開催・・・3回

修理実施にあたり、①所有者(林泉寺ご住職)、②埼玉県教育委員会、③埼玉県文化財審議員(成城大学 岩佐光晴教授)、④修理監修(林宏一氏)、⑤施工者(古文化財保存修復研究所 長井武志氏)、⑥越谷市教育委員会の6者が集まり、破損状況などを観察し、修理方針を確認した。

- ・第1回 令和5年6月26日(月)
- ・第2回 令和5年10月4日(水)
- ・第3回 令和5年10月16日(月)

(2) 修理方針の変更

当初の修理計画は「部分解体」であったが、修復の過程で仏像全体に矧ぎ目の目違いが確認できたため「全解体」となった。

(3) 検討会時の主な所見

- ①<部材の接着方法> 接着はニカワとむぎ漆を使っている。ニカワが造立当初に使用したもので、むぎ漆は後世の修復時に使用したもの。
- ②<体内の墨書> a)造立年を記録した墨書は2度書きされていると思われていたが、墨の状態や書き出し位置の観察から同時に書かれている。B)膝裏の地蔵は尼僧に見えるが、耳たぶが長いので地蔵だろう。赤外線写真で確認すると合掌し、足先まで詳細に描かれている。
- ③<部材の事前加工>使われている部材の大きさは同じ幅、同じ厚さのものを使っている。これは着工前に同じ大きさの部材に製材して多数用意し、組み上げている。14世紀初頭に都では事前に製材した部材を使って製作している例があるが、都以外では珍しい。

(4) 検討会及び修理写真 次ページ

⑤指定文化財の現状変更の許可及び環境の保全のため必要な施設の勧告に関すること

特になし

⑥指定文化財の買収に関すること

特になし

⑦文化財の出品公開に関すること

【所有者・保持団体による公開】

No.	指定区分	文化財名	所有者保持団体	公開日	備考
1	国	木造地蔵菩薩 立像	浄山寺	8月24日(木)	—

(3) 検討会及び修理写真



① 検討会の様子



③ 全解体の様子



② 木造伝正観音菩薩坐像

A: 顔	B: 左肩	C: 背中	D: 前胸
E: 右肩	F: 膝前	G: 手首	H: 髻



④ 内部の墨書1(地蔵絵)



⑤ 内部の墨書2(造立年)

胎内銘	
嘉元二年甲辰六月十二日	大檀那比丘尼 念阿弥
新福寺本尊共造宋畢	勸進沙門 当寺別
元應二年庚申九月十四日	比丘尼 念阿弥 施仏
此本尊口摺字	
1320 年	1304 年

⑧その他、文化財の保存及び活用に関し必要と認める事項

< ⑧ー1 文化財の施設管理に関すること >

(1)施設修繕

●:年度当初の予定修繕

No.	大間野	東方	荻島	修繕内容	施工
1	●			御嶽社縁側の高欄修繕 高欄の復元	【施工済み】
2		●		建具修繕:奥の間書院障子・広間襖 障子及び欄間修繕、襖引手修繕	【施工済み】
3	●			主屋土間階段修繕 手摺の新設	【施工済み】
4	●			煙感知器交換修繕 式台付き玄関上の煙感知器の交換	【施工済み】
5	○		○	電気修繕 大間野)コンセント修繕 荻島)電気制御盤修繕	【施工済み】
6			○	消防設備修繕	【施工済み】
7		未		管理棟・展示棟外壁腰壁修繕	【未着工】
8	未			土蔵観音開き扉修繕	【未着工】
★	●			北側廊下修繕 ※瓦の調整を行った結果雨漏りが無くなったことから、修繕なし。	修繕なし



<施工済み> No.1御嶽社縁側の高欄修繕



<未着工> No.8土蔵観音開き扉破損箇所

(2)施設の利活用

【入館者実績】(12 月末時点)

施設名	項目	開館日	入館者	入館料
大間野町 旧中村家住宅	実績	232 日	1,268 人	63,500 円
	前年同期	234 日	1,105 人	64,750 円
	前年比	▲2日	163 人	1,250 円
旧東方村 中村家住宅	実績	234 日	2,075 人	83,070 円
	前年同期	233 日	2,008 人	95,320 円
	前年比	1 日	67 人	▲12,250 円

【活用事業】(12 月31日現在)

資料2のとおり

施設名	主催事業等	学校利用
大間野町旧中村家住宅	9事業 305 人	2校 151 人 ※1月以降 2 校 133 人の予約あり
旧東方村中村家住宅	11 事業 723 人	4 校 312 人 ※1月以降 1 校 104 人の予約あり
越谷市立図書館	1 事業 846 人	



<大間野>越谷昔ばなし 11/18



<東方>昔の手づくりおもちゃ 9/30



<大間野>開館記念イベント 11/14



<東方>開館記念秋のお茶会 10/21

< ⑧—2 文化財調査事業に関すること >

(1)文化財基礎調査

(A)石造物調査

市内 13地区のうち、荻島地区・大沢地区の2地区を調査。

【調査地区】 ①荻島地区

越谷市小曾川・北後谷・砂原・長島・西新井・野島・南荻島

②大沢地区

越谷市大字大沢、大沢 1～4 丁目、東大沢 1～5 丁目

※データは現在整理中

※一次調査終了地区：(令和 4 年度)出羽地区・蒲生地区・川柳地区

(B)シメブチ調査

久伊豆神社のシメブチ(大注連縄飾り)は、新年に向けて元荒川に面した久伊豆神社第一鳥居前の樹木に飾る竜神をかたどった作り物をいい、宮本町(旧四丁野三町会)で受け継がれている民俗行事。

材料は宮本町内で採れる稲わら。作成方法は芯棒になる杉材に稲わらを縄状に編み込みながら巻いていき、頭と尾を作り、竜神とする。

シメブチは第一鳥居前の樹木に元荒川の上流方面が頭、下流方面が尾となるように飾る。紙垂は藁縄の間に差し込み、藁ひもで縛る。

合わせて、神社本殿をはじめ境内社、神楽殿などの各種建物、神木や力石などに飾る注連縄を作成し、飾り付けも行う。

日付 1日目:令和 5 年 12 月 14 日(木)

2日目:令和 5 年 12 月 17 日(日)

場所 宮本町二丁目個人宅

スケジュール (2日目:12 月 17 日)

8 時 00 分 作業開始

10 時～10 時 30 分 休憩

12 時 20 分 終了→昼食

13 時 00 分 神社集合

13 時 45 分 シメブチ神社到着(ユニックで運搬)

14 時 00 分 設置完了

15 時 40 分 神社内注連縄設置終了→社務所へ

メモ ・毎年5畝分の稲を使う。今年は本殿前のしめ縄を作ったので、7 畝分の稲を使った



＜設置＞写真左(下流)が尾、右(上流)が頭



＜作成風景＞藁綱を作り巻き付ける



＜尾＞飾るときには下へ向ける



＜頭＞飾るときには上へ向ける



＜完成＞尾側から撮影。長さ 7m30 cm

< ⑧—3 文化財の普及に関すること >

(1)市内小学校開校150周年記念展示「越谷から見た近代教育」

No.	展示名	会期	テーマ	会場	参加者	展示解説
1	第二部 「終戦前後の学校」	8/22(火)～ 9/12(火)	市立越ヶ谷小学校の校務日誌などから、第二次大戦末期と終戦直後の学校の様子を紹介する。	市立図書館展示室	846 人	8/24 11 人
2	第三部 「近代学校の夜明け前」	12/16(土)～ 1/22(月)	近代教育の土台となった近世末期の市域の学校を設立した旧東方村中村家当主・培根について紹介する。	旧東方村中村住宅	236 人 ※	12/22 16 人

※令和5年12月28日現在

主な展示資料

展示名	主な展示パネル資料
第二部 「終戦前後の学校」	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校奉安殿写真 ・尋常小学校通知表 ・越ヶ谷小学校校務日誌 ・応召兵見送り時の写真(越ヶ谷小学校) ・越ヶ谷高等女学校時代のテスト ・教科書(戦中・戦後) ・中学校の変遷
第三部 「近代学校の夜明け前」	<ul style="list-style-type: none"> ・寺子屋絵馬写真(加須市徳性寺蔵) ・寺子屋の推移(『埼玉県教育史』) ・進文学校校則、卒業証書 ・学校間取り図 ・中村義章(培根)肖像画

展示風景

<第2部> 8/22(火)～9/12(火) 市立図書館展示室



展示風景1



展示風景2



展示風景3



展示解説

<第3部> 12/16(土)～1/22(月) 旧東方村中村住宅



展示風景1



展示解説

(2)「郷土資料館のあり方」検討

市が所有する歴史資料等の整理を実施し、郷土資料館の展示や収蔵、活用を検討する際に必要な情報収集を行う。

民具類の整理……旧荻島公民館で保管している民具類を一点ずつ確認し、既存目録の内容を確認する。また公開用の写真を撮影する。

登録点数 : 1,794点(目録上登録している点数)

資料点数 : 3,216点



民具写真撮影風景



No.333 板木(増森小学校の刻印あり)



No.1793 謄写版



No.1290 学生服



No. 1292 セーラー服

(3)越谷市文化財ボランティア活動

活動テーマ	内容	参加人数
(活動1) 市刊行物のテキスト化	デジタルアーカイブで公開するため、市が発行した市史に関する冊子のデジタル化。	0 人
(活動2) 市所蔵文書の翻刻	市所蔵の古文書2点を翻刻	2 名
(活動3) 『越谷市史』からの出典抽出	『越谷市史』通史下の本文中にある出典抽出を実施。	0 名
(活動4) 『越谷市史』掲載資料目録作成	『越谷市史 (三)』掲載史料目録の作成	1 名

(4)文化財に係る情報発信

市域の歴史・文化財等について話題を提供するため、毎月1号程度のペースで情報発信チラシ「古民家だより」を発行。情報発信の方法は、市ホームページへの掲載のほか、大間野町旧中村家住宅・旧東方村中村家住宅での掲示、市立図書館での配架を行っている。

令和5年度は第 54 号から第 61 号までを発行。資料3。

市ホームページの閲覧数 1,527 件(令和 5 年 12 月 31日現在)

区分	内容
発行号数	第 54 号(令和5年5月6日) ～ 第 61 号(令和 5 年 12 月 22 日)
閲覧数	1, 527件(令和 5 年4月1日～令和 5 年 12 月 31 日)第 61 号まで



「古民家だより」第 61 号

< ⑧—4 文化財資料等整備に関すること >

(1) デジタルアーカイブの構築・公開

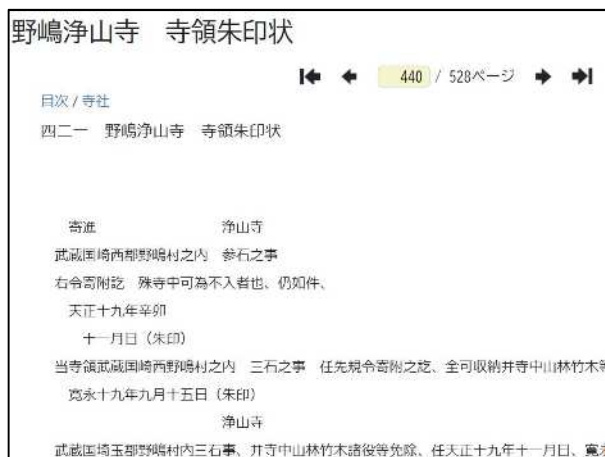
公開開始日 : 令和 5 年 8 月 1 日

アクセス数 : 158,704 件(令和 5 年 12 月 31 日)

公開資料点数 : (画像)12,063 点 (テキスト) 20 点

No.	公開日	公開点数	公開総点数	主な公開資料
1	令和 5 年 8 月 1 日	画像)12,063点 テキスト)20 点	画像)12,063点 テキスト)20 点	・『越谷市史』 ・3D パノラマ資料(両中村家) ・越谷駅前の写真(昭和 50 年代) ・越ヶ谷宿村絵図、明治天皇大沢 小休時書類 等
2	令和 6 年 1 月 31 日	①点	②点	・『越谷市史(三)史料一』、『越谷 の歴史物語二・三』等テキスト ・市史編纂時に収集・撮影した写 真(プリント) 等

< 令和 6 年1月 31 日に新規公開した主な資料 >



『越谷市史三史料一』(テキスト)



第 22 回埼玉国体・国体旗リレー(昭和 41 年)

(2) デジタルアーカイブ普及事業

① デジタルアーカイブ公開記念講演会(文化財講演会を兼ねる)

事業名	開催日時	参加者	内容
越谷市デジタル アーカイブ公開 記念講演会	8月26日 (土) 13:30～ 15:30	73人	<p><前半の部></p> <p>演題: 越谷市デジタルアーカイブでどんなことができるのか? ～探す・見る・活用する～</p> <p>講師: デジタルアーキビスト 入江 真希氏 (TRC-ADEAC 株式会社)</p> <p><後半の部></p> <p>演題: 「忍領の碑」はどこにあったか? ～デジタルアーカイブの活用事例～</p> <p>講師: 生涯学習課職員(菟原主幹)</p> <p>※共催:NPO 法人越谷市郷土研究会</p>

② デジタルアーカイブ操作研修会

事業名	開催日時	参加者	内容
デジタルアーカイブ操作研修会	9月24日 (日) ①10:00 ～11:30 ②13:30 ～15:00	19人 ①9人 ②10人	<p>内容: タブレット端末を操作しながら、越谷市デジタルアーカイブの操作方法を説明する初心者向けの研修会</p> <p>講師: TRC-ADEAC 株式会社</p>



① デジタルアーカイブ公開記念講演会



② デジタルアーカイブ操作研修会

< ⑧—5 その他 >

「都築家糴屋蔵」の国登録有形文化財への登録

越ヶ谷本町に所在する「都築家糴屋蔵」^{つづきけこうじやくら}が、国の文化審議会文化財分科会の審議・議決を経て、文部科学大臣へ答申され、令和5年8月7日（月）の国の官報告示により、正式に国登録有形文化財（建造物）となりました。

1 「都築家糴屋蔵」の概要

（1）所在の場所

越谷市越ヶ谷本町 4696-1

（2）主な特徴・評価

味噌醸造業を営む商家によって、昭和前期に日光道中越ヶ谷宿に造られた、土蔵風の鉄筋コンクリート造の2階建て倉庫。屋根は切妻造で、銅板瓦棒葺き。平側に入口を持ち、扉はダイヤル錠の付いた金庫風の堅牢なもので、外壁は砂利洗出し仕上げとなっている。内部は壁が板張りで、天井は漆喰仕上げとなっている。

昭和33年に醸造業を廃業。令和2年に改修され、現在は1階がカフェ、2階が多目的スペースとして活用されている。

（3）建築年代及び登録基準

建築年代等：昭和前期／令和2年改修

登録基準：造形の規範となっているもの

2 国の登録有形文化財（建造物）の概要

（1）登録数（令和6年1月1日現在）

全国で13,761件（うち埼玉県204件、越谷市13件）

（2）登録基準

文化財保護法に基づき、建築後50年を経過している建造物で、次のいずれかの基準に当てはまるものが対象となる。

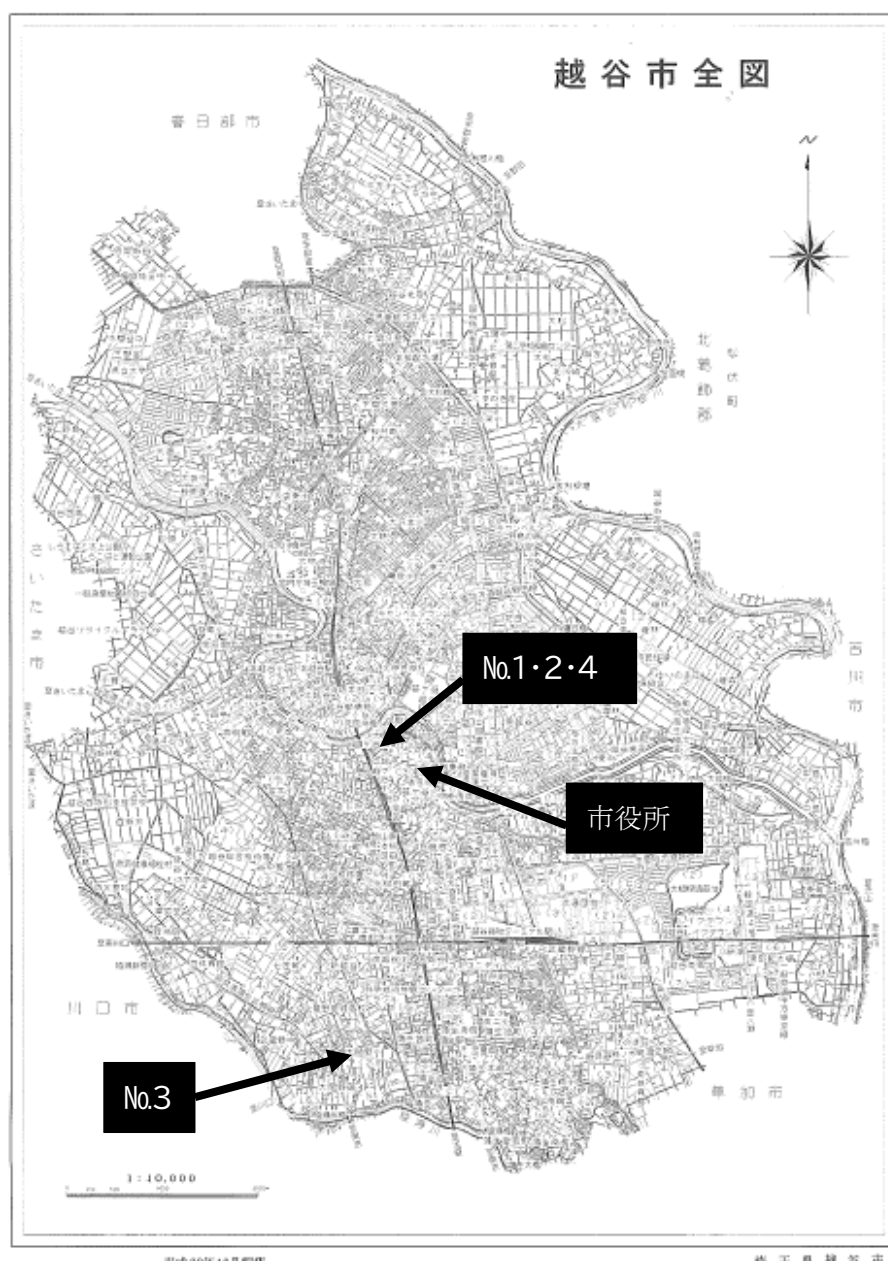
①国土の歴史的景観に寄与しているもの

②造形の規範となっているもの ➡ ※都築家糴屋蔵の登録基準は②

③再現することが容易でないもの

(3) 越谷市の登録有形文化財 13件

No.	建物名	登録年月	所在地
1	木下半助商店 ①店舗及び土蔵 ②石蔵 ③主屋 ④稲荷社	平成27年11月	中町
2	旧大野家住宅 ①主屋 ②土蔵	平成31年3月	越ヶ谷本町
3	大間野町 ①主屋 ②納屋 ③土蔵 旧中村家住宅 ④石蔵 ⑤御嶽社⑥長屋門	令和3年10月	大間野町
4	都築家糶屋蔵【新規】	令和5年8月	越ヶ谷本町



1 文化財講演会

No.	事業名	日程	対象	定員	参加者数	共催等	講師等
1	文化財講演会 ※デジタルアーカイブ講演会を兼ねる	8月26日(土) 13:30～15:30	-	100	73	NPO法人越谷市郷土研究会共催	・デジタルアーキビスト 入江真希氏 ・生涯学習課職員

2 大間野町旧中村家住宅

No.	事業名	日程	対象	定員	参加者数	共催等	講師等
1	初夏のお茶会	6月24日(土) ①10:00～②10:30～ ③11:00～④11:30～⑤13:00～	-	50	57	市教委主催	協力：越谷市茶道協会
2	木目込み人形作り～来年の干支「辰」	10月1日(日) 9:30～12:00 13:00～16:30	小学3年生以上(小学生は保護者 同伴)	18	17	NPO法人越谷市郷土研究会共催	遠藤 翠氏 山田 翠子氏 三上 芳子氏
3	ネオステンドアート(樹脂工芸)の壁掛け作り	10月8日(日) 13:30～15:00	小学3年生以上	15	14	NPO法人越谷市郷土研究会共催	得上 成子氏
4	【新規】古民家で紙芝居	10月21日(土) 10:30～11:30	2歳以上(未就学児は保護者 同伴)	20	16	市教委主催	子育てサークル「どんじゃらほい」土方 敏子
5	折り紙教室	11月5日(日) 13:00～15:00	小学生以上	15	10	NPO法人越谷市郷土研究会共催	小林 恵子氏
6	開館記念イベント ・お茶会 ・昔の遊び体験(自由参加) 10:00～13:30 ・力自慢大会(自由参加) 13:30～14:00 ・カマドで火おこし・おしるこ等提供・完成次第 ・木工折りたたみ椅子作り体験教室9:30～12:00	11月14日(火) 10:00～14:00	自由参加 折りたたみ椅子：小学4年生以上 (小学生は保護者同伴)	自由参加(お茶会 100・木工椅子 10)	161	NPO法人越谷市郷土研究会共催	・協力：越谷市茶道協会 ・折りたたみ椅子：郷土研究会3名
7	石仏の楽しみ方教室	2回講座 ①11月11日(土) 座学 10:00～12:00 ②11月14日(火) まち歩き 9:30～12:00	小学3年生以上(小学生は保護者 同伴)	15	7	NPO法人越谷市郷土研究会共催	加藤 幸一氏
8	越谷昔ばなし(R1、R13に実施した「お話し」の事業名を変更して実施)	11月18日(土) 10:00～11:30	小学3年生以上	30	13	NPO法人越谷市郷土研究会共催	NPO法人越谷市郷土研究会
9	古民家で作る正月飾り講習会	12月17日(日) 10:00～11:30	小学2年生以上(小学生は保護者 同伴)	10	10	NPO法人越谷市郷土研究会共催	生涯学習課職員(福田 博)
10	古民家のカマドでご飯を炊こう	1月13日・20日・27日 2月3日・10日・17日 土曜日 10:00～12:00	同居している2人以上のグループ (中学生未満は保護者同伴)	各2グループ		NPO法人越谷市郷土研究会共催	
合計				参加人数	305		

開催前

3 旧東方村中村家住宅

No.	事業名	日程	対象	定員	参加者数	共催等	講師等
1	防災フェス関連展示 「阿鼻叫喚からの再起」(関東大震災と越谷)	5月27日(土)、28日(日)	自由参加	-	170	市教委主催	-
2	昔のくらしを感じる講座①「自分の絵巻物を作ろう」	7月21日(金) 9:30～11:30	小学4～6年生	10	8	市教委主催	生涯学習課市史専門員 鈴木 健弥
3	ひがしかた寺子屋①「見田方連跡と勾玉づくり」	7月22日(土) 10:00～11:30	小学生(2年生以下は保護者 同伴)	10	10	NPO法人越谷ふるさとプロジェクト共催	NPO法人越谷ふるさとプロジェクト 三澤 善道氏
4	エコウィーク関連展示 「棉・綿」	9月16日(土)～10月31日(火)	自由参加	-	398	市教委主催	-
5	大人の寺子屋①「布ぞうり作り」	9月21日(木) 9:30～15:30	18歳以上	8	8	NPO法人越谷ふるさとプロジェクト共催	NPO法人越谷ふるさとプロジェクト 都筑 幸美氏
6	ひがしかた寺子屋②「昔の手づくりおもちゃ」	9月30日(土) 10:00～12:00	小学生(2年生以下は保護者 同伴)	10	10	NPO法人越谷ふるさとプロジェクト共催	NPO法人越谷ふるさとプロジェクト 三澤 善道氏
7	大人の寺子屋②「わら細工の鍋敷き作り」	11月16日(木) 10:00～12:00	18歳以上	10	10	NPO法人越谷ふるさとプロジェクト共催	NPO法人越谷ふるさとプロジェクト 三澤 善道氏
8	ひがしかた寺子屋③「どんぐり工作」	11月19日(日) 10:00～11:30	小学生(2年生以下は保護者 同伴)	10	5	NPO法人越谷ふるさとプロジェクト共催	NPO法人越谷ふるさとプロジェクト 都筑 幸美氏
9	開館記念秋のお茶会	10月21日(土) ①10:00～10:30 ②10:45～11:15 ③11:30～12:00 ④13:00～13:30 ⑤13:45～14:15	-	100	77	越谷市茶道協会協力	協力：越谷市茶道協会
10	昔のくらしを感じる講座 展示解説「終戦前後の学校」(第二部)	8月24日(木) 13:30～14:30	-	10	11	市教委主催	生涯学習課市史専門員 鈴木 健弥 会場：越谷市立図書館 展示室
	昔のくらしを感じる講座 展示解説「近代学校の夜明け前」(第三部)	12月22日(金) 13:30～14:30	-	10	16	市教委主催	生涯学習課市史専門員 鈴木 健弥
合計				参加人数	723		

4 文化財に関する展示

No.	事業名	日程	対象	定員	参加者数	共催等	講師等
1	市内小学校150周年記念展示 第二部「終戦前後の学校」	8月22日(火)～9月12日(火) 平日10:00～19:00 土日9:30～17:00 ※図書館休館日除く	自由参加	-	846	市教委主催	会場：越谷市立図書館 展示室
2	市内小学校150周年記念展示 第三部「近代学校の夜明け前」	12月16日(土)～1/22(月) 9:00～17:00 ※東方休館日除く	自由参加	-		市教委主催	
3	生涯学習フェスティバルにおける出土品展示	2月25日(日)	自由参加	-		越谷市生涯学習推進会・ 越谷市・市教委	
合計				参加人数	846		

開催中
開催前

5 その他

No.	事業名	日程	対象	定員	参加者数	共催等	講師等
1	県民の日入館無料(旧東方村中村家住宅)	11月14日(火)	-	-	45		-
2	【講師派遣】がもう楽生塾(蒲生公民館)	5月20日(土)	-	-	15	蒲生公民館主催・越谷市 生涯学習推進会企画運営	生涯学習課職 苑原 雄大
3	【新規】デジタルアーカイブ操作研修	9/24(日) ①10:00～11:30 ②13:30～15:00	-	40 各回20	19	市教委主催	講師：TRC-ADEAC株式会社 会場：越谷市役所第三庁舎1階 会議室1・2
4	【講師派遣】歴史文化講演会(春日部市郷土資料館)	3月16日(土)	-	-			
合計				参加人数	79		

開催前

「古民家だより」

第 54 号(令和5年5月6日) ～ 第 61 号(令和6年2月 21 日)



新型コロナウイルスの世界的大流行が始まってから4回目の春です。わが国の累計感染者数は3340万人を超え、犠牲になられた方は約74000人にも及びます。(4月1日現在)今年の桜は満開の時期に雨天が続いて、天候が回復した時にはもう散り始めていました。観桜には齢と共に様々な想いが積み重ねられていくようです。

「凄みと情熱に驚いた！」

この言葉は3月10日から28日まで旧東方村中村家住宅で行われた「市内小学校開校150周年記念展示 越谷から見た近代教育」の『第一部 近代学校の誕生』をご覧になった方の感想です。このような感想は他の来館者や展示解説会の折にも聞かれました。それは特に次の史料をご覧になった時でした。

現代語訳

およそ地球上の人類は五つに分かれていて、アジア人種、ヨーロッパ人種、マライ人種、アメリカ人種、アフリカ人種である。

「小学読本 巻一」明治7年

第一 地球上の人類は五つに分かれていて、アジア人種、ヨーロッパ人種、マライ人種、アメリカ人種、アフリカ人種である。

「小学読本 巻一」明治10年

第一 地球上の人類は五つに分かれていて、アジア人種、ヨーロッパ人種、マライ人種、アメリカ人種、アフリカ人種である。

現代語訳

およそ人の業(なり)行(な)は様々であるが、学ばなければならぬことはそれぞれ異なるとしても、まずは書を読む、文字を書き写し、ものを数えるのを学ぶのが最初になるべきことである。

明治初期の教科書
(左右共に越谷市教育委員会所蔵)

幕府が大政奉還してわずか5年後、明治5年(1872年)に新政府は「学制」(教育の方針、教育課程 等)を頒布して近代教育をスタートさせました。その頃に用いられたのがこの教科書でした。アメリカの「ウィルソン・リーダー」を翻訳したものです。これらは何と！**6歳児用**として編集されたものでした。(但し、この教科書は上の学年でも使用されたようです。またこれとは別に「いろは」や単語の教科書もあり、併用して学習しました。)編集者の田中義廉は教科書の巻頭に次のように書いています。(原文の現代語要約)

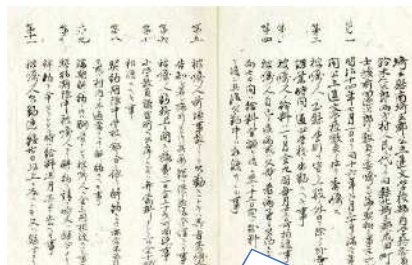
私は師範学校を創立する際に、小学校教科書が乏しいことに悩んだ。急速に「小学読本」を編集して生徒に授けるのは、編集刊行が急激に迫っているからである。整ったものではないが、様々な翻訳、添削したものを私宅で家事をする雇人に読ませてみたら、前日より理解が進んだ様子なので刊行することにした。

編集する人も迷い模索して試行錯誤していることがわかります。記事冒頭に紹介した展示の感想の一部は、こうした教科書やその作成にかけた当時の関係者の思いやエネルギーを感じとられたのでしょう。他にも来館された方々の感想をご紹介します。

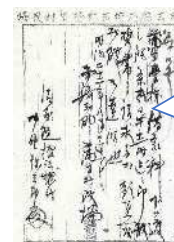
『規則(連文)学校の校則(明治八年)』を
観る来館の方々



- ★色が無い！ 字が小さい。(明治の実物教科書を見た小学2年生)
- ★地元民であっても聞けないお話を、興味深かったです。
- ★新制中学校についても知りたい。
- ★正直、驚いた。明治初期の日本の小学校教育のすごさ、予想を超える教育内容のレベルにである。現代に生きる私達からは無茶苦茶過ぎて乱暴そのままであるが、これをやってのけた当時の政府や教育関係者にある種の凄みと、狂気と、情熱を覚えた。
- ★ぜひ、資料館を。
- ★蒲生小の第95期生なのですが、150年と比べると、蒲生小学校はそんな初期からあったということを知ることができました。
- ★越谷市民ですが、あまり知らなかったもので、今日はとても沢山知ることができました。
- ★自分が生まれ育ち、仕事として教職にあることもあり、勉強になりました。授業の中で触れていきたい。
- ★難しいことを勉強していたんだなあ。
- ★学校にはこういう歴史があったんだ。
- ★資料と写真がわかりやすかった。
- ★分かっていること、聞かされてしまったこと(隠されたこと)、いろいろ有るんですね。
- ★市内で150年の歴史をもつ8つの学校について詳しく説明して頂き、大変勉強になりました。



期間、給料について西方村が雇った教員との契約書(越谷市教育委員会所蔵)



蒲生学校が置かれた清蔵院に借家料を蒲生村が払うので受け取りを要請する文書(個人蔵)

校舎建設や教員雇用等は町や村の負担でした。

建設中の越ヶ谷尋常小学校
明治三十四年頃 越谷小学校所蔵



会期中、来館された方の総数は453名でした。御礼申し上げます。今回はわが国の近代教育史上、その誕生期の様子をご紹介しました。その次の大きな変革は第二次世界大戦後でした。大戦末期から終戦後の混乱と変革は、越谷市域の学校から観たらどのように映ったのでしょうか。そのことについて、当時の様々な史料をもとに【**第二部 終戦前後の学校**】の展示を**8月頃**に行う計画です。(詳しくは広報こしがやでお知らせします。)





「来てよ！ 愛しい五月さん」という歌い出しの楽曲『春への憧れ』は、厳しい冬がようやく終わって待ちに待った春の到来を喜ぶ西欧の人々の気持ちを表しています。5月は日本では春から夏に移り変わる季節です。今号ではこの時期に行われる田植えについて、かつての様子をご紹介します。

玉苗植える五月

田植えの準備は、市域でも早い所では2月から始まっています。冬の間に堅くなってしまった土を掘り起こす「田起こし」を何度か行い、水を引き込むまでに細かい土にしておかなければなりません。

葛西用水に水が通され、溜井が満水になるのは4月中頃で、それから田んぼに引き込まれます。その後も水が土になじむように耕され、ようやく田植えとなります。

現在はカートリッジ式の苗床で育てたものを田植え機にセットして植えますが、かつて手作業で行っていた時は一家総出で行う厳しい労働でした。



4月上旬の溜井
(葛西用水に通水される前の様子)



5月2日の溜井
(堰が閉められて通水され、満水の状態になりました。)



(写真はいずれも越谷市教育委員会所蔵)



田起こしと水を引き入れる様子を撮った写真が市に所蔵されています。昭和30年代と思われます。家畜にひかせている農具は「犁」で、先端が金属製です。人の脚力で用水を田んぼに流し入れる農具は「水車」(踏み車)です。いずれも封建時代からあるものです。これらの農具は現物が「大間野町旧中村家住宅」に保存されています。

田植え歌

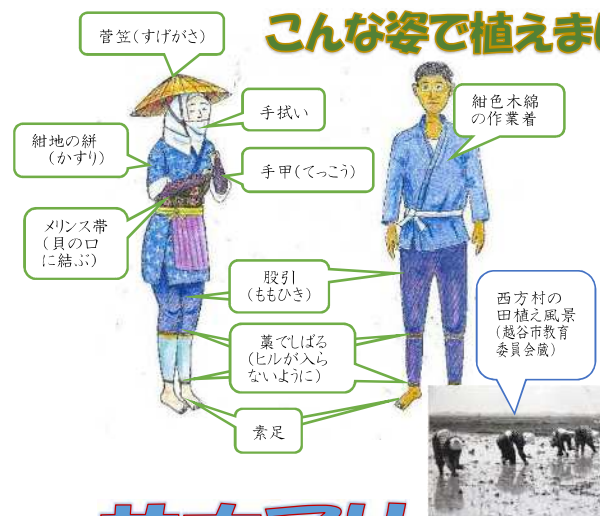
昭和45年(1970年)3月に発行された『越谷市民俗資料』には、増森地区と向畑地区の田植え歌が掲載されています。2番までは双方の歌が似ています。

1. ヤーレ 十七〜ヨイ 今年初めてヨ〜 田を植えたよ(ア、ウエテジャレ、ウエテジャレ)
2. ヤーレ しかも ナーヨイ この田はよく出来たよ (ア、ウエテジャレ、ウエテジャレ)

()内はお雛子の言葉で、「植えて下がれ」の意味だそうです。手で植える場合、かがんで一株植えるとそのまま下がつて次の苗を植えました。植える位置は大体決まっています。目印を付けたロープを張るか、予め「田転がし」という道具で田んぼにマス目を描いておきました。

苦しい作業もこの歌で少しでも気持ちを和らげたのでしょう。中世には「田楽」という歌と踊りの一座を呼んで田植えをした地域もあったので、各地に残る田植え歌はその名残かもしれません。

まだ寒さが残るうちから苗代で育てられた稲は、「玉苗」という言葉があるように大切な尊い苗という気持ちが込められていました。



サナブリ

6月、厳しい田植え作業が終わった後は、神様に感謝し皆でお祝いと互いの慰労を含めた宴が開かれました。これを「サナブリ」と言いました。「早苗饗」と書くそうです。一家の家族だけでなく、その家の田植えを手伝ってくれた人々を招いて行ったそうです。サナブリの様子を前掲の『越谷市民俗資料』からまとめて紹介します。

- ★早朝から餅つきをして御馳走を作る。
- ★まだ田植え中の人を励ますために田植え歌を歌う。
- ★12束の苗をきれいに洗って荒神様(竈の神様)にお供えする。
- ★手伝ってくれた人には御馳走を振舞い、引き出物(饅頭、手拭いなど)を持たせる。

田植えや稲刈りは家族だけでは出来ない作業だったので、予め計画を立て、近所の家々が互いに助け合って仕事を成し遂げました。こういう仕組みを「結」というところもあります。

レイクタウン防災フェス2023 『阿鼻叫喚からの再起』パネル展

- ◆期間 令和5年5月27日(土)〜28日(日)……この2日間は入館無料です。
- ◆場所 旧東方村中村家住宅(レイクタウン 9-51)

今年は大正12年(1923年)の関東大震災からちょうど100年になります。当時市域での即死者は19名もいました。この大震災の様子を次の内容でご紹介する展示を行います。

- ◆大震大火地図(東京市) ◆戒厳令・勅令 ◆新聞記者の奔走
- ◆市域の状況(被害、救助、避難、恐怖・不安) ◆復興への取り組み



当時の緊急勅令(『越谷市近現代資料目録』所収)



先日の台風第2号による浸水を被られた皆様には、衷心よりお見舞い申し上げます。

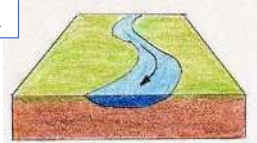
梅雨明けが待ち望まれるこの頃ですが、蟬の声もそろそろ聞こえ始めています。二十四もの季節があると云われる日本には、季節を織り込んだ世界一短い詩・俳句があります。市域でも近世から俳句の会がいくつも活動しました。

珍しい

河畔砂丘の遺跡

生涯学習課では毎年何件かの遺跡発掘調査を行っています。昨年、当市では初めての「河畔砂丘」上の発掘を行いました。「越谷に砂丘が?」と思われるかもしれませんが、河川沿いに形成された砂丘のことですが、実際、わが国内でも珍しい地形です。北上川や木曽川流域、そして利根川流域とその周辺だけに見られるそうです。それはどのようにして形成されるのかを図式化すると次の図のようになります。

1



2

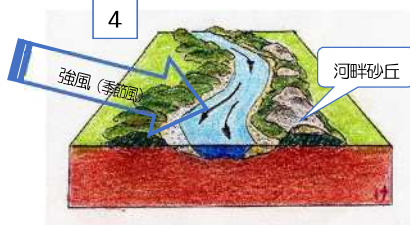


3



自然堤防

4



河畔砂丘

①関東平野は平坦で広大な土地なので、古来大小の河川が網の目のように流れていました。越谷市域では西に綾瀬川、中央部に元荒川、東部に古利根川・中川が流れていますが、その名が示すように、古の荒川、利根川とその支流です。

②これらの河川は度々氾濫を起こしました。洪水は上流から大量の土砂を運んできました。平坦な土地なので、洪水が終わると元の流路の両側には運ばれてきた土砂が残されました。

③こうして何度も洪水が繰り返されるうちに、河川の両側には小高い土地が形成されました。これを自然堤防と言います。そして河川と自然堤防の間には砂地(運び来れた火山灰など)が出来る所もありました。

④一定方向から強い風、例えば関東では冬の季節風(からっ風)が吹く地域では流路脇に溜まった砂が飛ばされて、一方の自然堤防上に堆積することがありました。これが河畔砂丘です。

市域の古代の姿『海道西遺跡』

市域で発掘した河畔砂丘上の遺跡は宮内庁埼玉鴨場近くで、「海道西遺跡」と命名されました。20m四方ほどの調査対象地でしたが、竪穴住居址2軒ほか、土坑30数基などが検出されました。遺物として土師器、須恵器、陶磁器類が出土しました。これらを考察してみると、この場所には



竪穴住居址



発掘調査区上空



調査の様子

海道??

ところで「海道」という名称についてです。遺跡の名称にはその地域、この場合は小字名が用いられています。この辺りには近世初頭に整備された日光道中(日光街道)が通っていました。そうであるならば「街道」となりそうですが、より古い言い方に「海道」があり、それが地名とされたようです。

「海道西」は旧大林村にあった字名ですが、「海道」の付く字は市域では旧瓦曽根村と旧下間久里村にもありました。『武蔵国郡村誌』による)

開催します!

市内小学校開校150周年記念展示
「越谷から見た近代教育」
『第二部 終戦前後の学校』

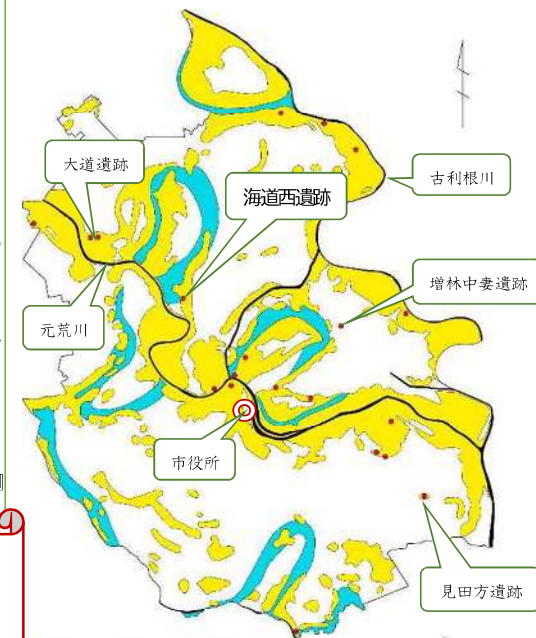
期間:8月22日(火)~9月12日(火)
場所:市立図書館1階展示室

9世紀~19世紀(平安時代~江戸時代)の集落があったことがわかりました。(詳しい内容は市立図書館2階の参考調査室に所蔵されている『海道西遺跡発掘調査報告書1』をご覧ください。)

砂地に住居を建て集落を形成するのは不思議な感じもします。実際、発掘に当たった職員は他の遺跡にはない困難さを体験したようです。けれども古代の人が選んで住んでいるということは砂地も意外にしっかりしていたのかもしれませんが。自然堤防は前ページの模式図のように河川の氾濫によって堆積した小高い地形なので、古来早い時期に集落が形成され、社寺も多くはこの地域に建立されました。下の市域の地形を表した地図からそのことがわかります。

このように市域にも古代から人々が生活を営んでいました。現在判明している最も古い住居址は「増林中妻遺跡」です。3世紀後半の竪穴住居址が発掘されています。これは九州の吉野ヶ里遺跡の時期と重なります。邪馬台国が日本列島のどこかに在った時期でもあります。邪馬台国の場所や成り立ちはまだ不明のことが多いのですが、その状況によっては越谷市域に在った集落、そこに暮らした人々の生活の様子にも関わってくることでしょう。

越谷市域の地形と遺跡の分布



自然堤防 湿地等 旧流路 河川等 遺跡



体温を越す気温の日が何日もあるこの頃です。最早「地球温暖化」ではなく「地球沸騰化」の状態だと、国連事務総長の言葉です。78年前の「越ヶ谷国民学校 校務日誌」では、8月の気温で30℃を超えた日は数日でした。

100 年前の大震災

間もなく関東大震災から100年を迎えます。このことに関して越谷市教育委員会では5月に「レイクタウン防災フェス2023」にあわせ、旧東方村中村家住宅で展示を行いました。その一部をご紹介します。

学校も大きな被害

出羽村立出羽尋常高等小学校



(市立出羽小学校沿革誌より)

各学校には開校から現在までのことを記した「沿革誌」があります。その内の2校の記録をご紹介します。

大きな被害を受けて先生方が慰問と救護に奔走したり、東京からの避難児童を受け入れたりしたことが記されています。

市域の寺社建築も損害を受けました。出羽村北部、元荒川近くの迎拱院の本堂など、いくつかが倒壊しました。

大相模村立大相模尋常高等小学校

学校現場のドキュメント【現代語要約】

(市立大相模小学校沿革誌より)

9.1 【震災当日】

始業式だが朝からの豪雨で出席少ない。午前11時52分、突如大地震、上下激動、足の踏む所を知らず。漸く校庭に出たら校舎が38度の傾斜。ガラスや壁が崩れる音が物凄しい。

9.2 15日まで臨時休業。

9.6 震災善後策のため郡校長会。

9.16 本日より仮教場（大聖寺、観音寺、金剛寺）で授業開始。
9.25 校舎応急修理（傾斜を起こし屋根葺き替え）により、全児童仮教場から移り、完全に授業開始。

9.30 本日まで収容した東京からの避難児童は31人。

10.3 県視学が震災後の状況視察に来校。

10.4 郡長が震災後の状況視察に来校。

11.6 修理完了。工費1000円也。

11.28 救恤（救済）品配給された。雑記帳75冊、半紙45

帖、毛筆30、鉛筆40ダース、慰問袋4、その他

1.31 第二次救恤品配給。教科書56、雑記帳889、掛図10、地図3幅、謄写版、オルガン、解剖器具、裁縫用具、虫眼鏡10、小黑板10、その他

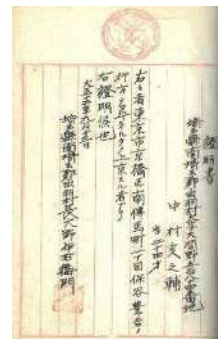
6.18 救恤金196円7銭が村に送金された。

6.21 救恤金を罹災児童と収容児童の保護者に渡す。

市域全体の状況

町村	即死	負傷	全壊	半壊
桜井	0	0	68	35
新方	0	0	13	14
増林	0	4	36	37
大袋	1	2	44	22
荻島	0	3	33	15
出羽	7	24	151	41
蒲生	5	4	14	9
大相模	5	25	61	15
川柳	1	4	21	3
越ヶ谷	0	0	18	59
大沢	0	0	20	4
計	19	66	479	254

(『越谷市史 五』より)



戒厳令の発布

一時的に法律を停止して、人々の行動を軍隊が統制する戒厳令が出されました。そのために、越ヶ谷から東京に行く際には左の証明書が必要でした。混乱の中での犯罪やデマを防止するために、下の「緊急勅令」も出されました。



復興に向かって



各町村から郡（県）には税金の免除が要請され、郡や税務署からは被害状況や資産状況の照会状が届きました。出羽村では税免除を求める署名と嘆願書が出されましたが、左の史料はその際に希望者は出頭して署名や申請をするように通達した文書です。文言の右側にある小さなカタカナ文は地域の言葉に直して分かりやすくしたもので、以下のように書かれています。被災した人への役場の人の細やかな心遣いが表れています。

戸数割の税金を勸弁（免除のこと）することについて、印形（いんぎょう＝印鑑）持って、あした昼前、役場にきつと来い。もし昼前に役場に来（き）なかったら勸弁（免除）はダメだ。

この他にも各戸に雨よけのトタン板を郡に要請するなど、町や村の人々は様々な方法で自ら復興しようとしました。

当時の教科書や写真、日誌や日記も展示します。

市内小学校開校150周年記念展示「越谷から見た近代教育」

『第2部 終戦前後の学校』

＊会期：令和5年(2023年)8月22日(火)～9月12日(火)

(休館日＝8月28、31日、9月4、11日)

＊場所：越谷市立図書館 1階 展示室

＊概要：昭和前期の概要、戦時中の学校と子どもたち、終戦、占領と学校、再生への取り組み

お待ちしております！

酷暑と豪雨に渇水・・・両極端な天候が日本列島だけでなく世界中で現れた夏ですが、少しずつ秋の気配に換わりつつあるようです。古民家の姿を観ていると、以前の四季の特徴をよく踏まえた造りをしていることが分かります。そんな旧東方村中村家住宅では、先月22日に今年度新採用の先生方の研修会が行われました。

新任の先生、大いに学ぶ

今年度新採用で越谷市立小中学校に着任した先生方は100人余り。そのうち26人の方々が旧東方村中村家住宅での研修会に参加されました。全員、初めての来館でした。その概要は次の通りです。

- ◆「昔の明かり」体験：①点灯した灯明、ろうソク（和と洋）、行灯、石油ランプ、白熱電球を見学。
②小グループで疑問や感想をまとめる。
③シェアリング（各グループの発表と質疑のコメント）。
- ◆当住宅の見学・観察：①まず説明なしで現代住宅との違いに注目して各自で自由に観察する。
②③（同上）

シェアリングで出されたことや感想文の一部をご紹介します。

明かりが何でできているかなんて...

- ★ろうフはどうやって作る？ 和ろうソクの作り方がすごい。
- ★和ろうソクの材料の見つけ方、調達の仕方は？
- ★明かり（照明具）の種類によって明るさが全然違う。
- ★灯明と和ろうソクを初めて見ました。便利になる中で失われていったものや、電気の普及の地域差など、普段考えない視点で学べたので良かった。



灯 明

- ★明かりが何でできているのかを気にしたことがなく、ほとんどが植物由来と聞いた時は驚きました。
- ★便利になっていく上で失われるもののお話が印象的でした。
- ★昔の人はこんなにも暗い所で生活していたのかと実感しました。明かりがあることで生活の幅が広がったことを考えると、私たちにとって明かりは、今の生活での第一歩であると思いました。



行 灯

かつて火は家の内外の色々な場所にありました。屋内の照明具以外にも電、囲炉裏、こたつ、行火、神棚、仏壇、風呂場などです。現代では“生”の火を見るのがとても少なくなりました。灯明や行灯、石油ランプのように火事の心配が少なくなり明るくなった半面、火や炎から受ける様々な感情を実感することが稀有になりました。
また、電気の普及の地域差があったこと(市域のかつての町村で、最大の差が10年以上ありました。)が、今では考えられないことなので、若い先生方には想像もなかったことのようにでした。

古民家は、こんなに違う

- ★なぜ風呂がないのか。
かつては奥の間の裏側に来客用風呂場がありました。住人用は土間の隣にありました。厠(かわや)もトイレも同様です。当住宅が生活空間と接待空間に分かれているのは、近世に中村家は名主を務めていたからです。古民家は生活空間と生産空間(作業場)がありますが、当家には行政の場もあったのです。
- ★生活の場とおもてなしの場で分かれていることを初めて知りました。
- ★普段触れることのない古民家を実際に見学することで、生活していたとしたらこんな時どうする？どうなる？という疑問を持ちやすかったです。
- ★現代の家の造りと、なぜこんなにも違うんだというくらい、違いを見つけることができました。それは時間をかけて人々が暮らしやすい家造りを考えてきたからだと思いました。
- ★屋根が2つある。
- ★大きな骨組みと細かい骨組みを組み合わせている。
- ★木材の使い分けはどうなのか？
- ★土間や敷居など、言葉としては知っていたものも、どう使われていたかを学ぶことができて良かったです。



当館の大きな棟(屋根)は確かに2つあります。他に小さな棟が3つ、合わせて5つの棟で構成されています。木組みと木材の使い分け(種類)についての文はいい着眼ですね。現代住宅では見られなくなった土間には、出入口、台所、作業場などの役割がありました。敷居は引き戸には必ずあるのですが、この名称は次第に使われなくなりつつあり、若い方の中にはご存じない方も少なくありません。そのため、「レール」や「段差」などの表現になってきました。「実家の敷居が高い(里帰りにくい)」という言葉も使われなくなりました。

「私たちも学び、伝えたい」



- ★グループで意見を出し合うことで、自分が気づかなかったところを知れたので良かったです。
- ★シェアリングすることで新しい発見があったり学びがありました。
- ★小学校から中学校まで、ずっと越谷で育っていたのですが、中村家住宅を初めて聞きました。実際に見てみると、越谷にこういうものがあったんだと嬉しかったです。
- ★我々が先に学ばなければならないことが実感できた研修でした。

昔の明かりや古民家の材料の多くは植物です。それは最後の氷河期が終わって日本列島が形成されてから豊かな四季に恵まれたからです。以来、列島に住んだ先人たちは、時にそうせざるを得ない状況もあったにせよ、自然を観察し、その特徴を生かして生活を営んできました。先生方は改めてそのことを思ったのでした。

ご来館ありがとうございました

市立図書館で開催された「市内小・中学校開校150周年記念展示『第二部 終戦前後の学校』」を終了しました。期間中ご覧頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。展示の様子は次号の「古民家だより」でご報告します。

エコウィーク2023 展示
場所:旧東方村中村家住宅(レイクタウン)
綿・綿
かつて市域でも生産されていた綿についての展示です。10月末までご覧いただけます。



古民家や伝統的な産業などを見ると、日本では季節の変化が多様で、先人たちはその折々の状況をうまく活用して暮らしてきたことが分かります。近年のように秋が以前に比べて短くなってくると、生活の在り様も変化していくのでしょうか。「秋」は「とき」とも読み、とても重要な時期を指すようです。

越谷の学校を通して見た終戦前後

「市内小学校開校150周年記念展示 越谷から見た近代教育」の『第二部 終戦前後の学校』には多くの皆様にお出で頂きました。60歳以上の方が多かったのですが、青年層や壮年層の方々も沢山見て下さり、また20歳未満の若い人々もこれまでより多くご来館いただきました。厚く御礼申し上げます。この展示の概要は次の通りです。

【序章】 教育に関する略年表（昭和初期～昭和22年）

【第一章】 戦時中の学校

- (1) 尋常高等小学校から国民学校へ……国民学校の教育の特質
- (2) 戦争末期の学校と子どもたち……『越ヶ谷国民学校 校務日誌』に記された空襲警報や勤労作業、イナゴ捕り、過酷な宿直勤務、教練、兵士見送り、村葬。『越ヶ谷高女』の学校生活。

【第二章】 終戦

- (1) 玉音放送……昭和20年8月15日の日記（作家・野口富士男、越ヶ谷高女の生徒）
- (2) 『越ヶ谷国民学校 校務日誌』に記された終戦直後の様子（荻島飛行場撤収、進駐軍、等）

【第三章】 混乱と生活の立て直し

- (1) 混乱……買い出し列車、墨塗り教科書、学校での相次ぐ盗難。
- (2) 教育の変革……新教育方針、米国教育使節団報告書、新制中学校の誕生。
- (3) 人間性回復を求めて……越ヶ谷文化連盟の活動、文芸誌「草笛」、戦後の学芸会。

【終章】 “明日”に向かって

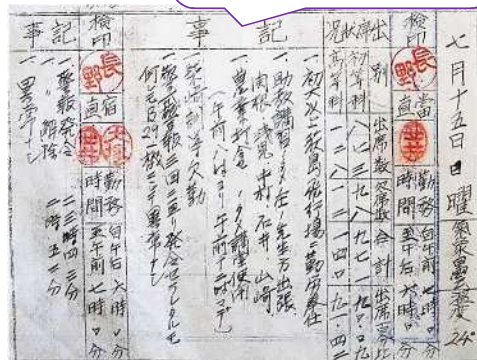
越ヶ谷高等女学校の先生の問いかけ「君たちは どう生きる？」

実物史料の発する力

今回は越谷市立図書館・展示室での開催でしたので、多くの実物史料を見て頂くことができました。そしてこれらの史料から、とても強い印象を持たれた方が多かったことがアンケートからわかりました。その一部をご紹介します。

『越ヶ谷国民学校 校務日誌』より

- ★戦時中、男性教員の徴兵により女性教員が宿直をせざるを得なかった事は初めて知りました。当時も今も教員は大変だと思います。
- ★校務日誌、村葬写真、など実物の資料から身近に感じられた。



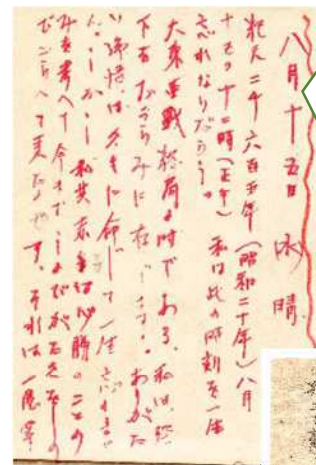
終戦1か月前の記録

（『越ヶ谷国民学校 校務日誌』越ヶ谷小学校蔵）

勤労作業や空襲警報、女性の宿直などが記録されています。

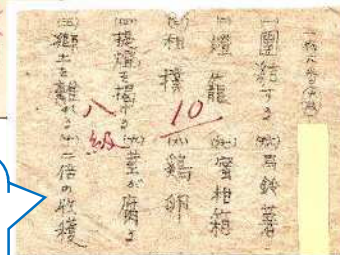
『越ヶ谷高等女学校生徒の通知表、漢字テスト、日記』より

- ★歴史として学んでいただけの戦争を身近に感じられた。特に8月15日の女学生の直筆の日記には胸を打たれた。
- ★わずか12歳の少女が終戦前後の日々に自分で体験したこと、考えたこと、正直な気持ちを書き綴っていて、グイグイ読まれました。
- ★普通の国民の日常の詳細や感情（多感な年頃、表に出せない）までも目に浮かんできました。素晴らしい。
- ★女学生の日記、驚かされました。多勢の方に見ていただきたいと思いました。
- ★今こうしてアンケート書いている紙よりもっと弱い紙で勉強していたんだ……
- ★12歳の少女の日記には心打つものがありました。貴重な私物を貸してくださった方々、有難うございました。



越ヶ谷高等女学校生徒の
漢字書取答案
昭和20年(1945年)(個人蔵)

鉛筆を丁寧に削り、紙を破らないように気をつけて書いたそうです。



若い世代が感じたこと

この展示は特に若い世代の方々に見ていただきたいと考えていました。その人々の感想をご紹介します。

- ★歴史の授業で学んだこと以外のことを多く知れた。(10歳代後半)
- ★学校で戦争を知識として学び理解していたが、実物を見ることでより深い学びになりました。(10歳代後半)
- ★戦争前後のことをあまり知らないで、資料を見て知ることが出来て良かった。当時のことを知らない世代が生きる時代になってきているからこそ、知ることがとても大切なことだと思いました。(30歳代後半)
- ★大きな展示などではほとんど見られない地元にて特化した内容で、戦時中のことがより自分の身近なものとして頭に入ってきました。(20歳前後)
- ★一生懸命、勉強しようと思った。(小学生)

若い世代の皆さんもしっかりと受け止めてくださったようです。小学生の文、資料のどういうところからそう思ったのか聞きたかったですね、『校務日誌』や『女学生史料』を見て、「自分もしっかり生きなくちゃ」と思ってしまったのかもしれない。次号では別のご感想をご紹介します。

古民家での職業体験

中学生社会体験チャレンジ事業の活動で、南中学校2年生5人が大間野町旧中村家住宅で、先月13、14日に職業体験をしました。これは中学校でのキャリア教育の一環です。当館の施設管理、竈炊飯と古代の米の調理法、蚊帳と蚊遣り、働くことの意義などを学習しました。

事後に5人からいただいたお手紙には、丁寧なお礼と共に、古民家での仕事には管理の仕事と学芸員の仕事があることがわかったと書かれていました。



同じ棉（綿）でもこんなに違うということを、実物を眼にして思います。旧東方村中村家住宅（レイクタウン）と大間野町旧中村家住宅では数年前から棉を栽培していますが、これは「洋綿」で、今年は春日部市立郷土資料館のご協力で「和綿」も栽培しています。両者は今、実が開裂して綿毛が出ていますが、この様子が異なります。『武蔵国郡村誌』には少なくとも明治初期まで市域のいくつかの村で綿の生産が行われていたことが記されていますが、これは恐らく和綿の方だと思います。

越谷の学校を通して見た終戦前後

その2

前号に続いて、「市内小学校開校 150 周年記念展示 越谷から見た近代教育『第一部 終戦前後の学校』」をご覧ください。感想・ご意見をいくつかご紹介致します。

自身や世の中と向き合って...

今回の展示をご観くださった方々の多くは 40 歳代後半以上の世代の皆様でした。人生の半ばの方、すでに職を離れた方、そして終戦前後に生まれた方です。この方々はそれぞれにこれまでのご自身の来し方や社会との関りを振り返りながらご覧になったようでした。

- ★戦争中の「教育」が壊されて、学びたくても学べなかった子供たちの様子が少しわかりました。
- ★入試があって合格して入学しても学べない無念さが切なく感じました。
- ★終戦前後の歴史をほとんど勉強しないで年を重ねてきました。改めてその一画を勉強させて頂きました。
- ★大東亜共栄圏を勇ましいと思った小学生時代の考えを反省しています。
- ★自分が育ち、お世話になった地の成り立ち、教育の変遷にはとても興味をひかれます。先人の様々な努力の上に現在の我々があるのだと、改めて考えさせられました。
- ★団塊世代の私は明治～終戦までの学びが足りておらず、退職後ようやく少しずつ取り組むようになりました。ああ、こういうことだったのかと、心の痛みと共に教えられることの何と多いことか。あの高度成長期を無自覚に前だけを見て、自分のことだけを考えた反省も込めて学び、できれば孫たちに伝えていきたいと思っています。



軍事教練
(越谷市教育委員会蔵)
収戦後の農地で中等学校男子生徒が軍人から軍事訓練を受けました。

雄刀の演武(越谷市立越谷小学校蔵)
国民学校高学年女子の武道として指導されました。



- ★戦後の再生の力強さを感じました。(現在でも起きている戦争、不穏動向などの) この時期に、このような企画は地味であっても大事なことだと思っています。
- ★私はかつて越谷市の中学校に勤務したことがあるが、今日触れた歴史的瞬間を切り取った事実など、まるで知らなかった。そこに生きた人々を改めて見直す思いが痛烈だった。
- ★当たり前のことだが、住まいである越谷にも戦争があったことを身近に感じられた。子供たちにも是非見て欲しい。
- ★越谷の文化活動の歴史は誇らしいですね。本屋さんの明詩社(今はない？昔、教科書を失くして、ここで買いました。)って、その「明詩」からきているのですか？

- ★もう少し掘り下げての展示があればと思いました。(広さも、場所も) なぜ戦争があったのか、越谷での戦争の影響、町づくりなども。
- ★年表が市と国内と世界と対比して書かれていて、とてもわかり易く興味深かった。
- ★戦中の教科書が有るのが大変良い。できれば内容も閲覧できると良い。
- ★ぜひ市役所でこの展示を行っていただきたい。もっと多くの人に見てもらおう価値がある。



昭和 22 年の新入生(越谷市立荻島小学校蔵)
終戦から2年経っていましたが、服装や身なりには戦争の跡が見られます。

歴史を学ぶことで現代社会や自分自身と向き合うことがあります。これらの感想は 40 歳代前半より若い方々の先達ともなるのではないのでしょうか。

有名な出来事や人物だけが世の中を作り動かしているわけではないということも、これらのご感想から伝わってきます。時の中央政權、為政者の政策は生活に大きな影響を与えますが、市井の人々はいつも受け身でいるわけではなく、様々な条件の下でもその地域から国や世界を観て、時には苦しみ時には希望をもって生きようとしていたことが様々な史料から感じられました。

このことは幕末に於いても同様で、『第三部 近代学校の夜明け前』で取り上げたいと計画しています。(令和 5 年 12 月 16 日～令和 6 年 1 月 22 日 於：旧東方村中村家住宅)

和洋の棉(綿)

普段何気なく身につけたりしている綿製品ですが、“綿(棉)”が元はどのような物なのか、あまり意識しません。麻が庶民の衣類の中心だった生活から綿の普及によって、人々は随分と快適になったと思われます。旧東方村中村家住宅では、9 月中旬から 10 月末まで、綿に関する展示を行いました。



【ご感想】

- ★庶民に広く綿が普及したのは意外と新しい時期だったのだと初めて知った。昔は寒さをしのぐのも大変だったのだらうと思った。
- ★実際に栽培から製綿まで作ってみたいくなりました。
- ★自分で種をまいて布を織るまでしてみたいので、学ばせてもらいました。日本でワタを生産できると知らなかったの、今日知ることができて良かったです。
- ★ガイドの方が丁寧に説明して下さいましたので、より理解し易かったです。このような歴史的建築物(市井の人々)は、是非保存を続けて子供たちへ教えていって頂きたいです。
- ★綿を紡ぐところの DVD 鑑賞あるといいなと思った。



古民家だより

No. 61
令和5年(2023年)12月22日(金)
越谷市教育委員会 生涯学習課



古民家をなぜ保存するのか・・・何年か前の小学生からの問いです。古民家を観察すると、わが国の季節の豊かさとそれを巧みに利用してきた知恵や思想を知ることができます。そしてそれは決して過去の遺物ではなく、現代や将来の人や社会の在り方をも示唆しているようにも思えます。

ところが左の写真の状況を見ると、一体これからどうなるのだろうという危機も感じざるを得ません。この夏、大間野町旧中村家住宅では雨戸の真鍮製レールが酷暑のために曲がってしまいました。平成16年(2004年)の開館以来初めての事です。

これまで四季の特徴やその移り変わりは当たり前のこととされてきたことが、これからはそうではなくなってしまうのでしょうか・・・

今号では四季の特徴を生かしてきた古民家を訪れた留学生の様子をご紹介します。

外国から古民家を観ると・・・

11月初旬、市内の文教大学に留学している学生16名が旧東方村中村家住宅に来館しました。出身国は中国9名、韓国2名、タジキスタン2名、スリランカ1名、ドイツ2名でした。皆さん日本語が堪能で、職員の説明を熱心に聴いてくださいました。

【見学の概要】

＊棉(綿)・・・当館では和棉と洋棉を栽培していて、ちょうど綿毛が露出している様子を見てもらいました。中国、韓国、タジキスタンでは綿花生産が盛んです。特にタジキスタン国旗の白色部は綿花を表しているとのことです。同国留学生は「自国で栽培しているのは洋棉です」と指差しました。

＊古民家の特徴・・・建材の多くは植物で、300年保つように建てられていること。多湿・多雨に耐える柱、特に根継ぎには皆さんが興味を示していました。また、腐食防止に柿渋を塗布したことを話すと、特にタジキスタンやドイツの学生は驚きの表情をしました。彼の地には柿はあまり見られないのです。土間の床は石と思った学生が多かったようです。使われている木材とその役割、文字通りの適材適所という用法にも興味を持ったようでした。いくつかの接ぎ木の見本も手に取って確かめてもらいました。

「Amazing! (驚き、見事)」 ～留学生の感想～



留学生が日本語または英語で応えてくれました。一部を改め、英文は日本語にご紹介します。()内は出身国です。

★この木製の家がとてもよく保全されてきたことに驚嘆しています。(中国)

★中村家住宅の構造に衝撃を受けました。床(土間)を作っている材料が粘土や石灰、にがりということも。それらは驚くべき見事な仕事だと思えます。

(スリランカ)

★(来館して) その時代に行った感じがしました。(タジキスタン)



の絵があることに驚きました。(中国)

★伝統的な住宅建築技術を教えてもらったのがとてもよかった。(ドイツ)

★私は古い日本の建築物が好きですが、この住宅はかつて人々がどのように暮らしたかを表しています。多くの説明にとっても興味を覚えました。(ドイツ)

★韓国と同じような部分があって面白かったです。広い量の部屋を見たのが初めてで、本当によかったです。(韓国)

★韓国の伝統の住宅と似ている部分が多いですけど、日本の住宅は夏に備えて準備したものが目につきました。夏の時はとても涼しいだろうと思いました。(韓国)

★歴史や文化の重みを感じました。それが時代を超えて残っている建築物は、過去の人々の足跡や知恵が詰まっているように思えます。(中国)

★心から古人の知恵に感心させられました。3種類の土で作られる床と、リベットを使わず建材だけで組み合わせたものの、すごく不思議だと思います。(中国)

★部屋の中に韓信



他言語を学ぶ意味

留学生の皆さんに、日本のどんな文化に興味を持ったのかを尋ねてみたところ、次のように応えてくれました。

食べ物と料理法、ラーメン、アニメ、映画、寺院、神社、狐、鬼、歌舞伎、歴史、着物、茶道、ひな祭り、伝統的な音楽と楽器、能、伝統的な建物、ポップカルチャー

「日本語は難しいですか？」と尋ねると、皆さんそろってうなずきました。特に敬語(丁寧語、尊敬語、謙讓語)が「ムズカシ〜」とのことでした。けれども、このような日本の文化を深く知るために日本で日本語を学びたいと来日したのです。ある国や民族の固有の、あるいは特徴的な文化を極めようとする際、その言語から学ぶことはとても大切なことですね。留学生が来日して研究することは、わが国にとっても学びが深まることになるでしょう。国や民族を越えて若者たちが互いの文化を学び合うことは、将来さらによりよい世の中をつくっていく下地になるのではないのでしょうか。

寺子屋から近代学校へ

今年は市内の8小学校で開校150周年を迎えました。そこでその記念展示を第一部、第二部と行ってきましたが、先日より第三部を開催しています。寒い中ですが、どうぞご来館ください。

市内小学校開校150周年記念展示

越谷から見た近代教育 『第三部 近代学校の夜明け前』

- ◆令和5年(2023年)12月16日(土)～令和6年(2024年)1月22日(月)
休館日: 12月20日(水)、27日(水)、29日(金)～1月3日(水)、1月10日(水)、17日(水)
- ◆於: 旧東方村中村家住宅 越谷市レイクタウン9丁目51番地(期間中は入館無料)
- ◆第1章 地域の寺子屋 第2章 近代学校の始まり 第3章 中村培根とその時代